

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 4 区分
 【発行日】平成 17 年 3 月 3 日 (2005.3.3)

【公開番号】特開 2002-153000 (P2002-153000A)
 【公開日】平成 14 年 5 月 24 日 (2002.5.24)
 【出願番号】特願 2000-343722 (P2000-343722)
 【国際特許分類第 7 版】

H 0 2 K 1/27

H 0 1 F 7/02

H 0 2 K 15/03

H 0 2 K 21/14

【F I】

H 0 2 K 1/27 5 0 1 E

H 0 2 K 1/27 5 0 1 A

H 0 2 K 1/27 5 0 1 K

H 0 1 F 7/02 A

H 0 2 K 15/03 C

H 0 2 K 15/03 G

H 0 2 K 21/14 M

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 3 月 29 日 (2004.3.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

そこで、ロータコア 3 のスリット 3 0 内にボンド磁石流動体を直接、流し込んだ後、固化することにより、ボンド磁石をロータコア 3 のスリット 3 0 内に埋め込む技術が特開平 1 0 - 3 0 4 6 1 0 号公報や特開 2 0 0 0 - 1 9 7 3 2 0 号公報に開示されている。この技術によれば、ロータコア 3 のスリット 3 0 が、どのような形状であっても、永久磁石（ボンド磁石）を隙間なく埋め込むことができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 9】

このように構成したロータ 2 においても、長さ寸法および幅寸法のうちの少なくとも一方がスリット 3 0 よりも大きな板状のボンド磁石 4 を前記スリット 3 0 内に圧入してなる。例えば、ボンド磁石 4 は、長さ寸法および幅寸法の双方がスリット 3 0 よりも大きい。このため、ボンド磁石 4 をスリット 3 0 に圧入した状態において、ボンド磁石 4 とスリット 3 0 との間には隙間が発生しない。また、ボンド磁石 4 については、外周側 3 7にいくほどより大きく圧縮させた状態で、ボンド磁石 4 をスリット 3 0 内に埋め込む。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 0 】

このように構成したロータ2では、やや大き目のボンド磁石4をロータコア3のスリット30内に圧入して、ボンド磁石4をロータコア3のスリット30内に埋め込むため、手間をかけてボンド磁石流動体をスリット30内に充填する必要がないなど、実施の形態1と同様な効果を奏する。また、スリット30は、外周側37に向かって幅が狭くなっているが、このような形状のスリット30であっても、ボンド磁石4を外周側37にいくほど大きく圧縮すれば、長さ方向で幅寸法が一定の平板状のボンド磁石4であっても、スリット30内に圧入することができる。しかも、スリット30の幅が狭いところでは、ボンド磁石4が大きく圧縮した状態にあるので、ボンド磁石4は強い力でスリット30の内面に接するので、スリット30からボンド磁石4が抜け出るおそれがない。さらにまた、このような形状のスリット30に圧入するボンド磁石4であっても、スリット30内にボンド磁石4を埋め込む前に、平板状のボンド磁石4に着磁を施しておけるという利点がある。

【手続補正4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図12

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図12】

